

アジサイの育て方(手入れ、時期、注意点)

◆土の選定

水はけと水もちのよい土を好みます。鉢植えする場合は、鹿沼土や赤玉土と腐葉土を混合したもの等がお勧めです。

◆場所

日の当たらない場所で育てると花つきが悪くなるため、半日程度日の当たる場所が理想的です。アジサイは、寒風にさらされると、枝の先端から枯れていきますので、そのような場所は避けるようにしてください。

◆水やりと施肥

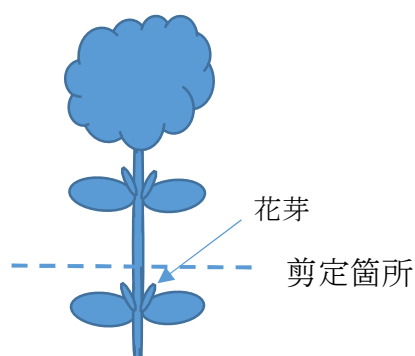
水を好みますので、土が乾燥しないようにしてください。夏場は特に注意が必要で、1日に2回以上の水やりが必要な場合もあります。

施肥は花が終わってから1ヶ月ほどしたら、油かすの固形肥料や化成肥料を与えます。また12月から2月の寒い時期に同様の施肥を行います。

◆アジサイの剪定と時期

アジサイを育てる中で最も大切なのは、花が終わった後の剪定です。

剪定は花が終わりしだい早いうちに行い、剪定方法はアジサイの花の下2節目に花芽があることを確認し、その花芽の2cmほど上で切り落とします。



◆植え替えの時期と方法

鉢植えのアジサイは、根詰まりを起こしやすいため、2～3年に一度は植え替えをお勧めします。植え替えの時期は、11月～翌年の3月頃までに行います。地植えをする場合も同様の時期に行います。

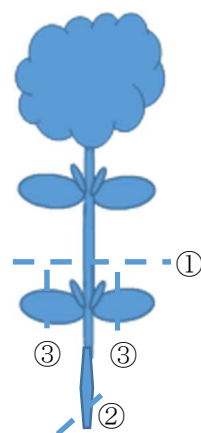
◆さし木の方法

アジサイの花の下2～3節目(葉と枝の間)に芽があることを確認し、その芽の2cmほど上で切ります①

その下の枝を斜めに切り②、葉は半分程度に切ります③

切ったものは1～2時間程度水につけて、その後素焼きの鉢や発泡スチロール等に赤玉土や鹿沼土を入れ、5～10cm

(裏面に続く)



ぐらい差し込み、風などで根本が動かないように押さえ込んでください。
さし木は直射日光を避け明るい所、あまり風の当たらないところに置きます。発根するまで肥料を与えないでください。

◆アジサイの花の色

土が酸性であれば、花は青色に変化し、アルカリ性であれば、花は赤色に変化します。ただし、白系の品種や西洋系のアジサイはほとんど色が変化しません。

◆株分けの時期と方法

花が咲き終わった後、株を掘り下げ、根を傷つけないように手で土を落とします。できるだけ手で株を分け、硬い場合ナイフ等を使い、分けた株を植えます。

◆花が咲かない原因として考えられるもの

- ①花が咲き終わった後に剪定をしなかった。
- ②剪定の時期と場所を間違えている。(表面のアジサイの剪定と時期を参照)
- ③日陰に置いている。
⇒日光が当たらないと生育はしますが、花が咲かない場合があります。花芽が作られる10月頃は特に日光に当てるようにしてください。
- ④肥料を全くあげていない。
⇒地植えの場合には肥料がなくても育ちますが、鉢植えの場合は適度に肥料をあげる必要があります。ただし、肥料をあげすぎると花が咲かない原因となります。(表面の水やりと施肥を参照)
- ⑤寒さで花芽が枯れた。(表面の場所を参照)

◆大きくなりすぎたアジサイを小さくする方法

すべての枝を株元近くで切ります。翌年枝が伸びますが、花は咲きません。その翌年には再び花を咲かせます。
翌年の花はあきらめないといけませんが、この剪定を行うことで小さくできます。